

インドネシアの中北部に位置するカリマンタン島に赴任して早10ヶ月が過ぎました。日本・インドネシア企業の合併事業であるアルミナ製造工場建設工事での資機材の管理が現在の業務です。ボルネオとも呼ばれる島なので動植物にあふれる自然豊かな秘境を想像していましたが、実際はワニやオラウータンに出会える訳ではありませんでした。

建設工事はインドネシア企業が受注しており、我々はアルミナ製造プラント工事全体の進捗監理を行っています。これまでは、世界中から購入した機器部品の中継地シンガポールから現場までの船輸送、臨時保税地区申請、通関業務や荷下ろし調整/立会いを行ってきました。現場はKapuas川沿いにあり、物流は主に船輸送が担っています。

工事も進捗し、これからは配管材料の管理・保管指導、機器据え付けにまつわるトラブルシューティングが主な業務になります（実際には輸送中の事故や納入品の不具合に対応することが間々ありました）。日本以外のアジア圏で仕事をなさった方は皆ご存じかとは思いますが、大らかな時間管理、不合理かとも思える諸習慣に驚き、時にはいらいらする毎日です。ただ、他の東南アジア諸国も同じですが、インドネシアには笑顔にあふれています。いらいらした気持ちも、一瞬 笑顔が消えてくれます。都市に住む日本人は笑みを浮かべることを忘れ去りつつあるのかもしれませんが。笑顔は笑顔をよびます。自分も仏頂面を治す努力をしています。

カリマンタンでは 熱帯植物覆われた地が広がり、雨期になると毎日の雨が樹木の成長を促し、水位の上があった河は森からの栄養分を下流域と海へと運んでいます。しかし、豊かな自然も人間の手に掛かると、その脆弱さが見え隠れします。一度掘り崩された大地にはなかなか雑草すら生えてきません。全ての生活ゴミを「川」へ流し去る習慣は廃棄物処理/下水処理の導入を拒んでいるようにも思えます。工場建設地は1年以上前に造成されましたが、周辺はまだ雑草が少なく赤土が露出したままです。そのすぐ脇には体長1mの大トカゲの住む森が広がっており、地元の方々が毎日沐浴するKapuas川には石油製品が漂っています。開発の早さ、環境教育と生活習慣のバランスを取ることが求められています。



図1 建設現場全景

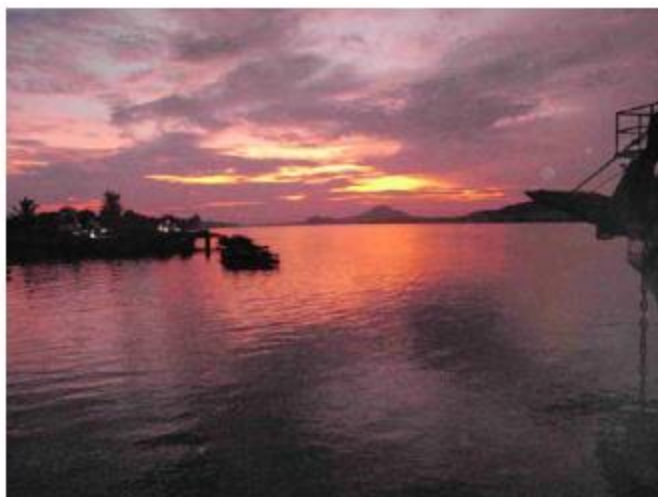


図2 Kapuas の日暮れ

工場稼働中の環境負荷を軽減するように、細々とした事項を積み上げ、設計や運転方案を関係者へ提案していくことが現場のエンジニアが出来ることであり、責務であると考えています。

建設工事は引渡しまで十数ヶ月となりました。毎日、ラジオ体操(かけ声は英語)で身をほぐし、Utamakan Keselamatan (Safety first) を唱和し安全作業に導き、諸問題(常に想定外)を初期に解決すべくし、皆で奮闘(格闘?) していきます。

2012年12月31日__YOSHIDA KIYOSHI